

# お客様の お宅 拝見！

## ドアの向こうのアメリカ

磐田市 M様邸

磐田市の丘陵地帯、冬場には遠く富士山を望むこの地に、端正かつ重厚な佇まいが美しいM様邸をご紹介します。海外生活が長かったM様が思い出の地静岡で「セカンドライフをゆったり過ごせるように」との想いで建築した住まいです。さて、どんな住まいに仕上がったのでしょうか。



玄関ドアを開けると、6帖を超えるゆとりの玄関ホールが広がります。「人によっては無駄と思うかもしれませんが、お客様が玄関に入った所からリラックスしてもらいたい。そう思ってスペースを確保しました。」そんなお話を伺いながらリビングに案内頂くと、全面吹抜けの13帖もの広大なリビングに圧倒されます。リビングイン階段から回廊へと続く白い手すりの佇まいは、「映画の中のアメリカンホーム」そんな印象です。

リビングを通り抜けると、キッチン、ダイニング合わせて20帖を超えるダイニングスペースが広がります。ダッチオープンを組み込んだL型キッチンとアイランドタイプのセンターテーブルのレイアウトも、海外の邸宅と錯覚しそうな印象です。

「しばらく海外で暮らすと、広いスペースに慣れてしまいました…。この住まいをプランニングする際、この感覚を担当の方に共感してもらえず、ちょっと苦労しました。(笑)」

実はM様、アメリカでマイホームを建てられ、少し前まで、ご家族で暮らされていたそうで、この住まいは、日米をまたがった建て替えという事になります。

今回の住まいづくりの思い出をお聞きすると…「フルオーダーなので、自由度は高いのですが、決める事が多すぎて大変でした。アメリカでは、フルオーダーと言っても、ここまで自由度はありません。でも、建築が進み、階段が付き、手すりが

ついて行くと、アメリカでの生活が思い出され、懐かしくもあり、ワクワクしたりと、色々楽しめました。」とご主人。アメリカのカーペンターと日本の大工の違いをお聞きすると、「アメリカの家は、まさに工業製品、作業者はどちらかと言えばオペレーターで、融通が利かない部分があります。日本の大工は、まさにハンドメイク、現場で交渉しながら一緒に家を建てている感覚が良いです。日本大工さんの職人氣質と技には感謝しています。」とお褒めの言葉を頂きました。

新築されて変化した事を何うと「庭いじりを始めたんです。みかん、柿、オリーブ…。違う果物の木を1本づつ植えました。何年先になるか分かりませんが、今から収穫が楽しみです。」とご主人。「床暖房にしたら、ネコがよろこんでいます。幸せそうに寝ているのを見るとこっちまで楽しくなります。」と奥様。

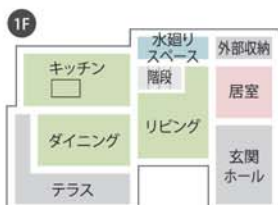
実は取材中、ソファの上では“この家の王様”ことアメリカンロングヘアーのLalaくんがお昼寝中。彼の睡眠を妨げないように、ひっそりと撮影です。こんな穏やかな気持ちになるのは、広々とした空間だけが理由ではなさそうです。アメリカンドリームを絵に描いたような邸宅は、心優しいご夫婦とやんちゃな猫くんたちが四季の移ろいを楽しみながら暮らすアットホームな空間でした。



手造りの庭と上質感のあるテラス 全面吹抜けの開放感あるリビング



ダッチオープンを組み込んだL型キッチン



アイランドテーブルがポイントのDK



スタンドグラス風に装飾された回廊窓